

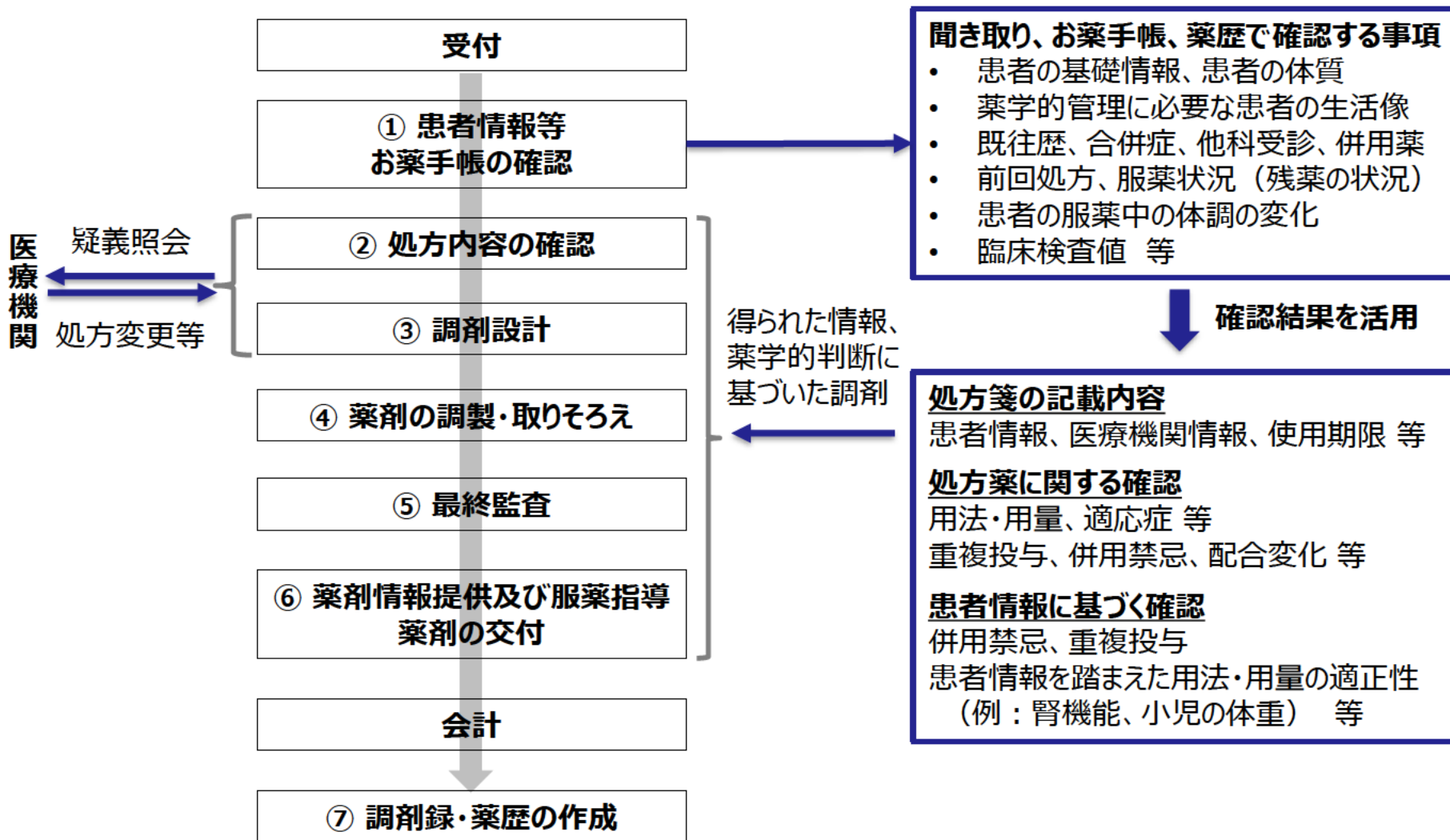
調剤業務の効率化について

一般社団法人 日本保険薬局協会

2022年1月19日

調剤業務の流れ

調剤業務の各工程において、相互に、かつ、迅速に正確な情報が共有されることで、適切な調剤、薬学管理が実施可能となる。仮に、一連の行為が外部に分担された場合、責任の所在が曖昧となることはもとより、委託先の業務の正確性・安全性を委託者が確認することは、極めて困難であることから安全を著しく損なう可能性がある。



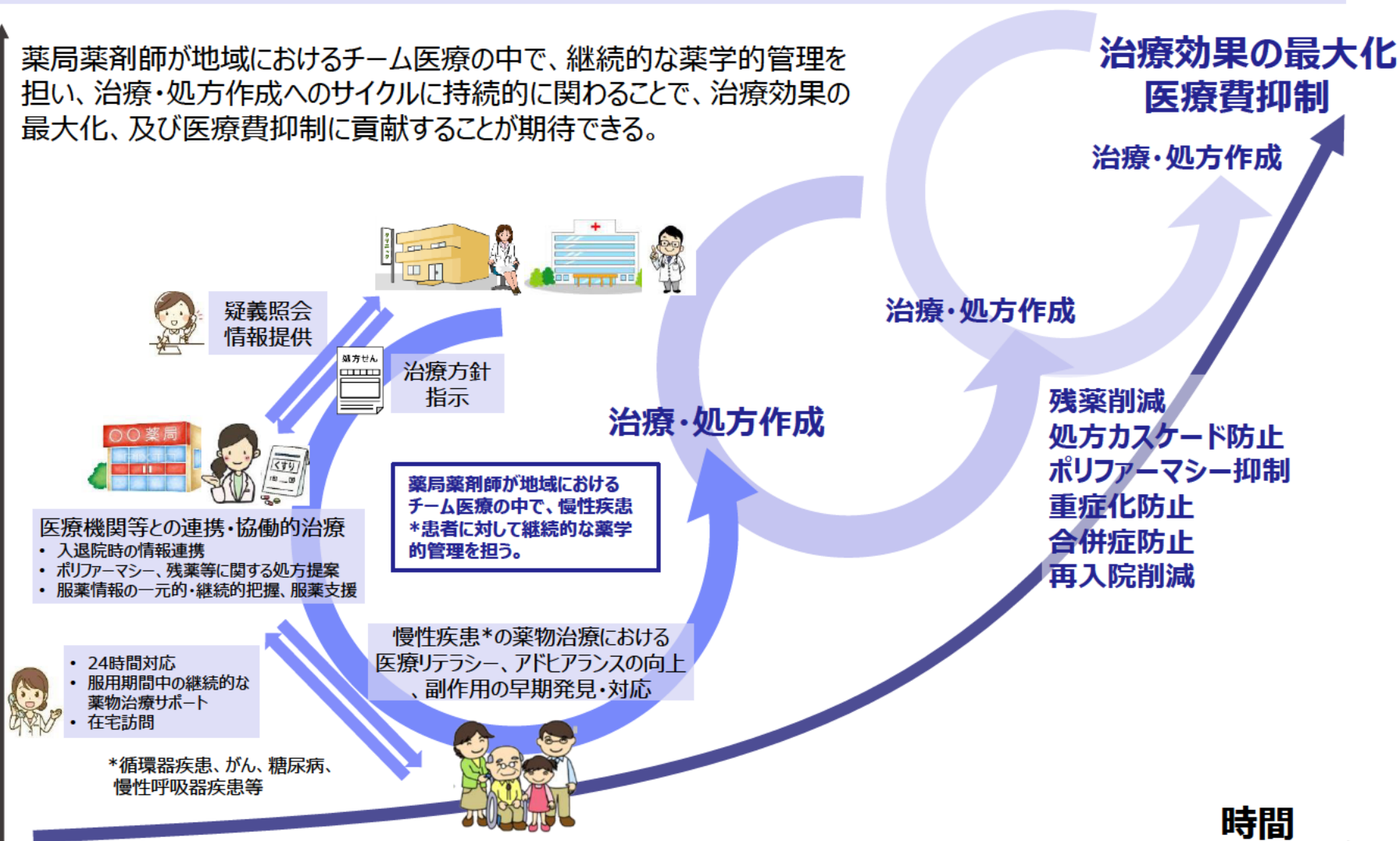
チーム医療における情報連携

チーム医療においては、迅速かつ、効果的な情報連携が求められる中で、一連の調剤業務が分担された場合、薬剤師による情報把握の正確性や迅速性が損なわれ、情報連携の質の低下につながりかねない。

良

薬局薬剤師が地域におけるチーム医療の中で、継続的な薬学的管理を担い、治療・処方作成へのサイクルに持続的に関わることで、治療効果の最大化、及び医療費抑制に貢献することが期待できる。

治療経過



まとめ

薬局・薬剤師の業務に関わる検討に関して、第一に患者の安心・安全を守ることに重点を置いた上での検討が必要であり、その中でも特に、調剤業務の外部委託については、現時点では、医療安全、薬学的指導及び管理、業務効率化の面から適切な手段とは言えない。

■ 調剤業務の外部委託に関する懸念点

- ・ 調剤業務は、患者の状況や処方箋の疑義などを確認の上、医薬品の取り揃えや調製、服薬指導等の薬学管理という一連の行為から成り、各工程において、相互に、かつ、迅速に正確な情報が共有されることで、適切な調剤、薬学管理が実施可能となる。
- ・ 調剤業務を外部委託し、一連の情報伝達が分断されることは、工程の一部であっても、薬物治療の有効性、安全性を大きく損なうリスクを伴い、かつ、業務効率が低下するおそれがある。
- ・ また、チーム医療においては迅速かつ、効果的な連携が求められる中で、その質の低下につながりかねない。
- ・ 一連の行為が外部に分担されることで責任の所在が曖昧となることはもとより、委託先の業務の正確性・安全性を委託者が確認することは、極めて困難であることから安全を著しく損なう可能性がある。

なお、もう一つの項目である「コンビニ宅配ロッカー等での処方箋医薬品の受け取り」についても、具体的な提案内容について同様の観点から検討する必要がある。



Nippon Pharmacy Association

日本保険薬局協会